



中谷外務大臣政務官を団長とするミッション一行のサル大統領との面会

世界の各地で新型コロナウイルスに対する措置が取られています。これらの対策とバランスをとりながら徐々に経済社会活動を再開する方向にあります。当地セネガルと周辺国においても同じ状況です。空港が再開され、国際商用便の運航が一部開始されています。とはいえ、新型コロナウイルスに対して十分な注意が必要なのは変わりません。

今年の2月に日本からセネガルを訪問したアフリカ貿易・投資促進官民合同ミッションについてお話しする機会がなかったので、ご紹介したいと思います。このミッションは、日本企業20社、総勢40名近くが参加され、中谷真一外務大臣政務官が団長を務めました。

セネガルは平和で安定した国です。マッキー・サル大統領は二期目に入って、ますます勢いが増しています。経済もPSE（セネガル新興計画）を開始した2014年以降、毎年6%を超え順調にきており、石油・天然ガスが発見されて将来も有望です。これだけ好条件が揃っている国ですので、多くの国や企業が注目して進出の勢いが増しています。

ミッション一行は、サル大統領、ホットウ経済・計画・協力大臣と面会して意見交換を行いました。その結果、日本企業向けのワンストップ窓口を投資・大規模工事促進公社（APIX）内に設置し、日本企業専用の経済特区をセネガルに設置することが決まりました。日本への期待が高い証左です。また、投資セミナーを実施して、セネガル政府や企業の方々と情報交換とマッチングを行いました。既に、新規の日本企業進出、共同事業の契約成立などの具体的成果がありました。

さらに、ミッション派遣に合わせて、日・セネガル投資促進経済委員会が発足しました。今後とも、対セネガル投資の促進、ビジネス環境の整備を目指します。

なお、この機会を利用して、ソアレシュ地域統合大臣をヘッドとするカーボベルデの代表団とも会合を設けました。日本ではまだ知られていない国ですが、遠洋漁業の分野で古いお付き合いがあります。今後の展開が期待されます。

大使館としても、日本とセネガル、カーボベルデとの経済関係が進むようにお手伝いして参ります。諸活動が少しずつ再開される中で、新型コロナウイルスを克服しつつ、経済関係の強化を進めていきたいと望んでいます。近く日・セネガル投資促進経済委員会の第二回会合の開催を準備しております。

皆様のご健康をお祈り申し上げます。